

男女共同参画・ダイバーシティに関する委員会

(平成 25 年度第 3 回)

議 事 録

2013 年 12 月 10 日 (火) 開催

時 間	15:00～17:00	場 所	地盤工学会会議室		
工 藤 委 員 長	○	亀 村 オフ ^レ サ ^ー ハ ^ー	○	浅 田 委 員	○
山 口 委 員	○	野 崎 委 員	○	西 岡 委 員	○
小 林 委 員	×	田 中 委 員	○	山 下 委 員	○
熊 野 委 員	×	渡 邊 オフ ^レ サ ^ー ハ ^ー	○		

○：出席 ×：欠席

議事録担当者：西岡委員

【前回議事録の確認】

【別紙 - 1】 pp. 1-3

- ・承認された。

【議 題】

【報告事項】

1. 会員・支部部の動き (工藤委員長)

【別紙 - 2】 pp. 4-6

- ・次年度予算は、38 万円である。夏学および若手座談会までは対応可能と考えられるが、シニア WG で大きく動くとすれば予算に注意が必要。
- ・シニアボランティアについては、12 月までに何らかの動きを求められている。技術普及委員会でもシニア講習会+懇談会を企画中である。
- ・ダイバーシティの目的として、「会員増」なのか「会費増」なのかという議論に関して、ある理事から「社会的な学会の存在感を高めるには、一定の会員数を確保する必要がある。会費よりも会員数を確保することが重要である」との意見があった旨、報告があった。
⇒「会費よりも会員数優先」という考え方はこれまでダイバーシティ委員会でも十分に認識されていない意見であるが、「会費優先」よりもダイバーシティ委員会の活動方針との相性は良いと思われる。
⇒このような考え方・問題意識が学会全体で共有できていないことが問題の一つであると考えられる。等の議論がなされた。

2. 男女共同参画学協会連絡会関連報告 (田中委員)

【別紙 - 3】 pp. 7

- ・参加していただいた熊野委員からのコメントとして、理系女子高校生の進学先が医療系に偏っており、自然科学系に対して親の印象が悪いというハンデがあるとの報告があった。
⇒特に土木・建設系は、3Kでワークライフバランスに問題があるといったマイナスイメージがあり、少なからず事実の部分もある。ただし、医療系でもワークライフバランスの問題は指摘されており、イメージの問題も大きいのではないかと、等の議論がなされた。

3. 土木学会ダイバーシティ推進委員会動向(工藤委員長)

【別紙 - 4】 p. 8-12

- ・10/28 開催フォーラムについて、発案から1か月程度で企画を実施、集客もできたとのことが報告された。

4. 第 34 回地盤工学若手セミナー参加報告(西岡委員)

【別紙 - 5】 pp. 13-16

- ・若手セミナー自体は地盤工学会とは独立した活動ではあるが、参加者のメーリングリスト等のネットワークを有しているため、セミナー幹事が終了した翌年度から順次ダイバーシティ委員会の委員として勧誘する体制としていきたいとの議論がなされた。

5. ダイバーシティ減免制度の利用状況報告(工藤委員長)

【別紙 - 6】 pp. 17

- ・現状把握として減免資格喪失者の動きについてまとめた結果について報告された。
⇒若手の退会については、仕事が別業種になってしまった場合まで引き止めることは困難であり、さほど気にする必要は無いのではないかと。これを除外すれば75%の退会を留まらせることができたという解釈でき、非常に大きな効果があったと言える。
- ⇒減免制度利用後の退会者には、制度の意義を伝えた上で退会理由を聞き、学会誌等に記事を書いてもらうような取組があってもよいのではないかと。等の議論がなされた。

【審議事項】

1. 北九州大会関連

【別紙 - 7】 pp. 18

＜主な議論，決定事項＞

- ・来年もダイバーシティ特別セッションとサロンは初日の午後となる見込み
- ・九州側でコラボできる相手先を探す必要がある。
⇒九州出身の小林委員，熊野委員経由で情報収集する
⇒土木学会女性の会経由で問い合わせる
⇒地盤工学会九州支部へ問い合わせる（担当：浅田委員）
⇒日経コンストラクションに北九州市役所の女性土木職員（矢野様）の記事があった
(<http://kenplatz.nikkeibp.co.jp/article/const/column/20130812/628149/>)
- ・特別セッションの発表者としては、「地元女性」，「シニア（地元も検討）」，「若手座談会報告（渡邊オブザーバー）」の3枠を基本とする。
- ・担当者は他の企画も踏まえて以下のとおりとする。

企画	実施時期	担当者	
若手座談会	2014年5月	西岡委員，渡邊オブザーバー	
北九州大会	2014年7月	サロン	田中委員，熊野委員
		特別セッション	山口委員，小林委員
夏の学校	2014年8月	未定	

2. ダイバーシティの一層の推進に向けて(西岡委員)

【別紙 - 8】 pp. 19

- ・若手，女性，シニア等の枠組みで座談会等を行ってきているが，多くの分野から「学会がこれまでのやり方，考え方を時代に即したものにしないとダメ！」という意見が挙がってきている。その具体的な対策として①民間コンサルタントの活用，②ダイバーシティ委員会における活動負荷の上限規制，③ダイバーシティ委員会の格上げが提案された。

＜主な議論＞

- ・土日で家族で参加できる「会員の家族サービスのためのイベント・企画」があると良いのではないかと。（例：ミネラルマーケット，泥団子教室，地形ガイド付きハイキング等）
- ・防災教育系の市民向け企画の実施に際して，地球環境基金（対象：環境保全活動）(http://www.erca.go.jp/jfge/subsidy/application/h26_info.html)等からの助成金がもらえる可能性があるため，これも視野にいれてはどうか？
- ・自発的に企画立ち上げのメンバーが集まるうちは良いが，開催がノルマ的になると運営リソースの確保が問題となる。
- ・業務の一環としてでなければ運営リソースが集まらないという問題がある一方で，完全に業務とは別にボランティアとして活動している会員もいるという現状もある。

＜決定事項＞

- ・今後も議論を継続する

3. 女性活躍関係の進捗と今後の方針、計画について

＜決定事項＞

- ・水環境学会誌で女性特集号でロールモデルを示す記事があったので，これを参考として地盤工学会誌で「女性特集号」として取り上げてもらうことを打診することとする。土木系の大学では，ロールモデル集を探している，あるいは，そういうロールモデルが掲載されている学会誌等があれば大変参考になるので積極的に広報するというような意見も上がっているようである。
- ・記事は公募もした方がよい。特集号以降にリレー形式で連載記事を設ける方式もありうる。

4. シニア WG の進捗と今後の方針、計画について(亀村オブザーバー、野崎委員) 【別紙 - 8】 pp.24-31
- ・会員支部部へシニアボランティア企画の取組について報告・提案するため、現状の課題を整理した上で、段階的に取り組んでいくことを記載した資料案が説明された。

<主な議論>

- ・シニアボランティア自体の取組は初回が非常に重要であり、シニアが共感できる企画でなければ逆に大幅に会員減少となるリスクを有していることを認識すべきである。シニアに「学会が変わりつつある」と感じさせられるかどうか重要。
- ・企画は新たに追加するのではなく、スクラップ&ビルドで全体を見直すべきであるが、全体の調整がなされていないように思われる。
- ・「ボランティアを企画して募集する」のではなく、「ボランティアをしたいという自発的な声を手助けする」という考え方に立つべき。
- ・ダイバーシティ委員会がシニアボランティアの調整まで担うのはリソース的にも、年齢差からも無理がある。シニア自らが企画して実行するという方向からすれば、「シニアボランティア委員会」的な枠組みを新たに設けるべきである。ただし、一部委員がダイバーシティ委員会のシニア WG と兼任するなどして、ダイバーシティ委員会との連携を図ることも重要である。
- ・「シニアボランティア準備委員会」の委員長には、50歳代後半の民間(実務者)の会員が適任と思われる。ダイバーシティ委員会で選出は困難であるため、会員支部部長あるいは理事経由で候補者選びに取り組んでもらう必要がある。

<決定事項>

- ・会員支部部へは、「シニアボランティア準備委員会」を立ち上げ、東京および地方1箇所(例えば次年度研究発表会実施の九州支部)に限定したパイロットケースを実施して、課題整理・問題把握を行うべきことを回答する。

5. 若手活躍関係の進捗と今後の方針、計画について(西岡委員)

<決定事項>

- ・若手座談会は、5/13(火)午後を候補日とする(翌日が東日本大震災関係のシンポジウムなので地方参加者も集まりやすいと予想)。予備日は5/21(水)とする。
- ・募集対象は主に大学関係者とする。公募は旅費支給無とするが、委員会から声掛けした方は旅費を支給する。若手セミナーで声掛けしたところ、かなりの参加人数が確保できる見込みだが、旅費が予算上の課題となるので募集人数は精査する。
- ・昨年同様、ワールドカフェ方式とする。ただし、模造紙は大変なので、A3用紙を用いることとし、1ラウンド毎に紙を入れ替えることとする。
- ・その他の主な準備作業としては、名札作成程度である。

6. その他

- ・オブザーバー参加の渡邊氏を正式委員とし会員支部部に承認を得ることとした。

7. 次回開催日の確認：2014年3月25日(火)15:00~17:00

⇒主な議題：若手座談会計画、北九州大会準備等